

まなびで“きびる”プロジェクト

探究的な学び（総合的な探究の時間）における評価規準作成の参考資料

No.4（多様な価値観を反映させた探究）

1 はじめに

やまぐち教育先導研究室では、学習指導要領解説（文部科学省）や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参考に、まなびで“きびる”プロジェクトで開発した教育プログラム（以下、教育プログラムという）を活用した総合的な探究の時間における評価規準についての資料を作成しました。各学校で総合的な探究の時間を担当する先生方の授業や評価の計画の参考資料として活用してもらいたいと考えています。

2 評価規準とは

総合的な探究の時間で身に付けさせたい資質・能力が着実に身に付くよう指導者は指導を改善し、学習者は学びを改善する必要があります（いわゆる指導と評価の一体化）。改善点については、各学校で作成した目標に対応した評価規準と現状とを比較することで把握するとよいでしょう。

学習指導要領（平成30年告示）では、総合的な探究の時間の目標及び内容は資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で整理され、学習評価については、三つの柱に対応した3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価規準が必要です。

3 教育プログラムとは

教育プログラムとは、探究的な学びにおける、課題発見・解決のための調査方法やアイデア発想のコツ及び、解決策を伝えるためのプレゼンテーションの技を知ることができる解決・思考ツールです。総合的な探究（学習）の時間のほか、各教科で活用することで、児童・生徒の思考を深めることが期待できます。また、教育プログラムを使って指導することで、総合的な探究（学習）の時間等の探究的な学びについて、初めて指導する方も効果的に指導できるツールとして活用できます。

4 参考資料（想定事例）

- (1) 学校名：S高等学校（探究科）
- (2) 授業：2学年総合的な探究の時間
- (3) 単元名：多様な価値観を理解して、探究学習に取り組もう（35時間）
- (4) 単元の目標：

国際的な視野をもち、課題の発見と解決をするための活動を通してア、必要な知識や技能を身に付け、協働的に課題を解決することの大切さを理解するとともにイ、多様な人々と協働しながら、課題を発見や仮説を立て、適切な情報を論理的に表現しウ、多様な価値観を認めながら、協働的に課題を解決することができるエようにする。

※目標を構成する要素

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習内容
- イ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ウ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「思考力・判断力・表現力等」
- エ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

(5) 単元の評価規準

育成をめざす資質・能力の
三つの柱に対応

単元名	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な価値観を理解して、探究学習に取り組もう	<p>① 国際的な視点から社会貢献するためには、データをエビデンスとして捉えて活用し、課題を科学的に考察することが必要であることを理解している。</p> <p>② 実験や現地視察を、目的や対象に応じて適切に行い、その結果を正確に記録し、まとめている。</p> <p>③ 他国の文化や価値観の違いについて認識するためにはコミュニケーションが必要であり、英語を用いることで、それが可能になることに気付いている。</p>	<p>① 科学的な視点から課題を設定し、その解決に向けて仮説を立て、検証する方法を考え、計画を立てている。</p> <p>② 課題解決に必要な情報を、先行研究や文献などから、目的に応じて適切な手段を選択し、収集している。</p> <p>③ 先行研究や文献の内容をもとに、適切な実験やディスカッションを通じて、分析している。</p> <p>④ スライド資料を用いて、論理的に表現するとともに、探究活動を振り返ることで、自己実現に生かしている。</p>	<p>① 探究活動を通して、自分の個性や特徴を見つめるとともに、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。</p> <p>② 主体的に課題と向き合い、多様な価値観を認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。</p> <p>③ 次世代を担う者として志を立て、国際的な視点で持続可能な社会の実現のために貢献しようとしている。</p>

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究の意義や価値の理解

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

- ①自己理解・他者理解
- ②主体性・協働性
- ③将来展望・社会参画

(6) 指導と評価の計画 (全 35 時間)

㊦その場面での活用により活動の質の向上が期待できる教育プログラム

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 協働的な学びの体験しよう (12)	㊦クリエイティブ・リサーチ ・ 関門地域の教育資源を訪問して、課題を発見する。 具体的事例①「思考・判断・表現①」		①		・ レポート
	㊦誰でもデザイナーになれる授業 ・ グループで解決方法を話し合う。 ・ ポスターにまとめる。 ・ グループごとに発表する。		②		・ データ分析資料
2 科学的な内容を英語で理解し、表現しよう (3)	・ イマージョン教育 (理系科目を英語で学ぶ) 具体的事例②「知識・技能①」	①			・ リフレクションシート
3 留学生・海外の高校生とのオンライン交流で英語を活用しよう (8)	・ 自己紹介や文化紹介などの英作文 ・ 留学生との交流会 ・ ハワイの高校生との交流会		③	①	・ 活動日誌 ・ ディスカッション準備資料
	・ 交流会の振り返り 具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」			②	・ 活動日誌
4 中間まとめ (2)	㊦中身のいらないプレゼンの授業 ・ これまで学習した内容を下級生を対象に発表する。	②			・ 中間報告書 ・ 発表資料
5 立命館アジア太平洋大学への訪問・海外研修での英語を活用しよう (8)	・ 課題研究に関わる内容について、留学生にインタビューする。 ・ インタビューにした結果について、留学生との協働により英語でまとめ発表する。	②			・ インタビュー準備シート ・ 活動日誌
	・ 課題研究の成果について、現地の学生に向けて英語で発表する。	③			・ 活動日誌
6 まとめ (2)	・ これまでの学習を報告書にまとめる。		④	③	・ 報告書

各観点を見取る場面を設定する。一度に多くの観点を見取ることは難しいので、確実に見取ることができるよう計画すること。

(7) 観点別学習状況の評価の進め方

○ **具体的事例①「思考・判断・表現①」**

- ・ 評価の場面

協働的な学びを体験的に理解させるために、身近な地域課題を取り上げる。7人程度の班に分かれ、班ごとに事前に調査した下関市内の施設や史跡(海響館、歴史博物館等)を訪問して、課題を発見する。訪問後のレポートの記述から「思考・判断・表現①」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「思考・判断・表現①」】

科学的な視点から課題を設定し、その解決に向けて仮説を立て、検証する方法を考え、計画を立てている。

【期待する生徒の姿】

実際に施設や史跡を訪れることによって知り得た情報を元に課題を発見するとともに、班ごとの計画実現に向けて、それぞれの生徒が関係機関や地元企業に対して働きかける計画を立てている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

レポートに、課題を設定した理由やその解決に向けた仮説の立案が科学的な根拠に基づいてなされていることで見取ります。

【コラム】教育プログラムの活用場面

本格的な探究学習を行う前に、オリエンテーションとして簡易な形で探究の流れを体験する場面を設けることがある。事例の小単元では、情報の収集と課題設定に重点を置いた協働的な探究学習を体験する場面として設定している。課題設定の場面では、課題に対しての当事者意識があるかどうかで、その後の探究学習の深まりが変わってくる。そのため、課題設定に先立って、自分の大切な誰かを想定し、その人ための課題解決を柔軟な思考で考える「誰でもデザイナーになれる授業」を実施することで、生徒に当事者意識をもつことや柔軟に考えていくことの大切さについて伝えることにつながる。

○ **具体的事例②「知識・技能①」**

- ・ 評価の場面

本単元は、英語を用いて探究的な学びを進めるための準備段階として設定している。日本語で既習した理科の内容を英語で学習することで内容を分析的に理解し、データを科学的に捉えることをねらう。また、研究内容について専門用語や学習内容を踏まえ、英語で論理的に表現する方法を、実感を伴いながら理解する。ここでは、リフレクションシートにより、「知識・技能①」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「知識・技能①」】

国際的な視点から社会貢献するためには、データをエビデンスとして捉えて活用し、課題を科学的に考察することが必要であることを理解している。

【期待する生徒の姿】

研究内容について、データを科学的な視点で評価したり、専門的な英単語を用いたり、英語の例文を応用したりして表現している。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

【見取る方法】

リフレクションシートに、データを科学的に捉えることや相手の立場で英語表現することの大切さが記入されていることで見取ります。

○ **具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」**

- ・ 評価の場面

この小單元では、英語を活用した探究的な学びの一貫として、留学生・海外の高校生とオンラインで交流会（ディスカッション）を行う。この時間は交流会後の振り返りを通じて、課題を多様な視点から見つめ直し、探究の高度化・自律化をめざす。活動日誌の記述から「主体的に取り組む態度②」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】

主体的に課題と向き合い、多様な価値観を認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。

【期待する生徒の姿】

留学生の意見を積極的に捉え、自らの考えや表現の不足しているところについて主体的に改善し、課題解決に向けて思考を深めている。さらに、その改善した内容について、他者に評価をもらう姿が見られるなど、自律的に探究学習を行っている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

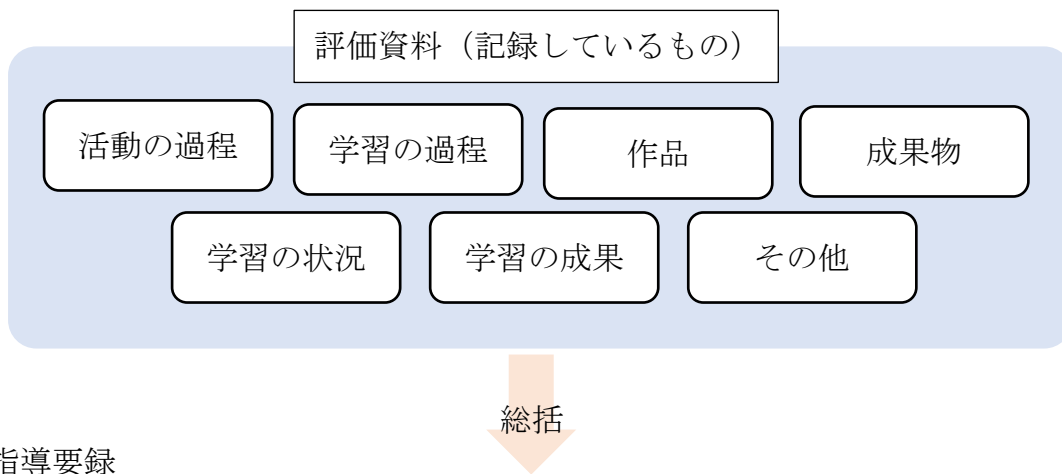
【見取る方法】

課題の改善点とその理由に整合性があるか、他者の意見が反映されているか、改善点の科学的根拠があるかを活動日誌の記述から見取ります。

5 単元計画までの準備

- ① 学校教育目標を確認する。
- ② 総合的な探究の時間の目標（以下、第1の目標）を確認する。
- ③ 学校教育目標と第1の目標を踏まえ、各学校において定める目標（以下、第2の目標）を作成する。
- ④ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童・生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（以下、改善等通知）を確認する。
- ⑤ 第2の目標と改善等通知を踏まえ、学校において定めた総合的な探究の時間の評価の観点の趣旨を作成する。
- ⑥ 各学校で内容のまとめり（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力（三つの柱））を作成する。
- ⑦ 内容のまとめりごとの評価規準（3観点）を作成する。
- ⑧ 内容のまとめりごとの評価規準の考え方を踏まえ、単元の目標（三つの柱による）を作成する。
- ⑨ 単元の評価規準（3観点）を作成する。
- ⑩ 指導と評価の計画を作成する。

6 評価の総括のイメージ



指導要録		
学習活動	観点	評価
単元名等	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述

参考資料

- ・文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総合的な探究の時間編』，学校図書株式会社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校総合的な探究の時間】』，株式会社東洋館出版社